

## 編集後記

本号の巻頭言は日野伸一教授にお願いいたしました。

道路橋の維持管理について思うことと題して、橋梁の予防保全による長寿命化に関する寿命の設定および長寿命化の最大のポイントである床版の耐久性について貴重なご意見と、橋梁の維持管理へのシニアエンジニアの活用と地域住民参加のご提案を頂いております。先生にはご多忙のところ玉稿をお寄せ頂き、誠に有り難うございました。誌面を借りまして厚く御礼申し上げます。

東京港臨海大橋（仮称）のアプローチおよびトラス橋中央径間の地組立てが千葉工場で行われており、5月には浜出しが行われる予定です。また、隣接工区施工のトラス橋側径間の架設もほぼ完了し、京葉線の車窓からもその壮大な姿の片鱗を観ることができます。昨年からはテレビ等でも本橋が取り上げられる機会も多く、「コンクリートから人へ」の公共事業への逆風の中、このような華やかなプロジェクトに我が社が携わっていることに感慨深いものがあります。また、本橋の工場製作の過程を日々見るなかで、関係者の技術力と努力に敬服するばかりです。

この技報においても、上記に関連して、東京港臨海大橋（仮称）の製作、軽量で耐食性に優れた打替え用FRP合成床版、橋梁の維持管理のためのモニタリングシステム（OSMOS）などが報告されております。このように、宮地の新設橋梁の開発・設計・架設から既設橋梁の維持管理に至るまで幅広い技術を報告することにより、橋梁に関する技術の向上に貢献できれば幸いです。

最後になりましたが、執筆者を始め多くの関係者の御協力により本号を発刊することが出来たことに感謝致します。

## 宮地技報編集委員会

委員長	金原慎一			
副委員長	宮崎好永	百瀬敏彦		
委員	阿部幸夫	小林祐輔	米崎倫和*	
	佐藤敏浩	鈴木義孝	関利夫	
	中村佐吉	永谷秀樹*	西垣登	
	村上貴紀	矢ヶ部彰	吉川薫	
	吉田芳久			

\*印 事務局兼務  
(平成22年3月31日)

## 宮地技報 第25号

発行日 平成22年4月23日

発行所 株式会社宮地鐵工所

〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町9番19号

TEL 03(3639)2111(代)

印刷所 望月印刷株式会社